

安見彩

太田道確难飛録卷之四

天了一の日外びからう門上移興房五十るで奉る 一能上院の月州 美政公司見其動各分司の べり六脚のく 再び軍の日

知と伊重國三島のそ合戦のり 神でをあるある

軍の軍 我と動む門事を保教のる 退去のる

後にから

次百位清太丹金湯 下口目發

大田道灌雄飛録卷之四

下多樣 京教の変質自己入道德本が家督るけ改長、我就遺跡とめしている。 だろうでも世の中かえりるる変をかれますしんといろなとくようちょうてい 小了る此了明色八二年辛巴品月名用天子一の同以び出了了天意地 頭武の五十あると 好いはある。風つているのかるのあるかる思ないろくからでも 長福も後四本のとよい事の十二月十二日改えありて安正元年しぞあり 一大小二Dの日及び出る事。所了上次多頭神中里奉名の夏 ときなるとうでってってったいとうくるろしきれどうと うようも何と中人教育の人東國中人上也の去的女婦房 く在陣して要待的方と戦了日あるぞ 東都 木村梅羊忠貞編舞

れらる変質弱は家を成故と最康の家務の事論と多り。然に見事する 放了て含新さまのしあして将軍長政之内含意義視が多のので家智と き管領的川勝名と四職の山名家全後處とあるといるが東西よ神 ようろうかりいがけれてみをきまるの何からくかとむし とて越後軍了与我相撲音房定の一男頭定と招き房れの妹婚とあ 四分より韓むして成氏ときりにおしま園と事物は治してと路家男と かとあらえとせりの文山える一两成七月中田運食暖降めて東中かと など相撲すると最尾の者ともなる人相撲と遠げのはきの改動人教人 ふくうておきべる内内的目とであってつるあるすいるまますい くうなる年間の上村多八城就教就山市一次あ上村と一周生 後天芸者るでまあじいるう くろえまるかとはないよう あるなるよう

お軍家もあらとうの初川も又二後とかふすべてかけの動れいるるへ いいついまするとうちょうとはまるのならそのなどもしらっくっとうで かかさてもちだとりいますもあって彼らあるまんじらりが中事あく世代 まった月六日の放めくるとありけるか二年なりかくましれる家の中 中央でいて又上教韓山野神の過ぐさかる場であるありでは、文正元 ら情むできまするは残の作所ある東面の彼ろもすつできてのかる

通衛と信義政之後見東國治事の対象と述る事所り動きの

とうるるとは然と

くろだろれる。

福寿の東

寛正文年中中七月而之代の帝後を国院御殿展ありて神位心春宮成仁 親うるにはている。後土御門院としまるへときるったる中のゆるのかる

此的首結其在

Name !

太正江清海外盆者之区

き一分持資思了人先奉文質情入道しく道真と第一例不像公公里一个 動事とのうはこんの電下あじる猪園の武家多門馬佐の女女をある ことうさやくの弱いかけらにらいなるのうしべすれるの道と道准と ふる軍家の記録として使者りるよろして祝るとりころるは、国東す 電子二十三段小あしせる人家的二條相國持通公务の将軍民政公院の 嘉學门院大次は门内大臣信公公の好名的自上中的人的人人 もんが谷のと我修行工まで大正より老民太田を修门法持省文使者不会でし はいく我界代のまたろとく一後のからちてあまの重要で好人」と 風東の年秋事接如一て解鑑の朝る一の分のてる歌るのかさくるで 野一頭で都へぞとうの金着の久時の管領留山尾張子改長のはころ 今度慶賀のちと格の由とりも別式政スト目見いとうけるととうで

無く又子なりとれしているあろうちのなるの別も強いきからない 故べるとうべならとうて強すからすで三個ともの五常とれらてを信息ま ちのとのははずして中のいま、風をものす、朝るべしともない 多くるうりをがにや朋友の信でるるを思いようべしてきる 時のはるもかられ酸となり人の道とする変といるが偏る夷牧 他くとろうの成れがなどあって民とおりのスハー朝の怒し我をと事し おいまくのこと思ふつとうて不穏とするよいったととれてしてるとのかってい 高中あくもとなけるのあるくぞ思に熟まむるか若今初軍家る。 が塚と移め复いの下があるほかざらずるありれい一個再意思 智力と素情しろうな好とろうび大車を起しまかつけしている かる者でも多く横行 して弱きべかしまるるない村色でを事い しなるといっせい

Ξ

大田道霍雀系

通信くなきのるとものみのは田川かると向りものくる通信 坂里ではるうちとなっておくすだに関東路車の計奏がちずら なしいゆるとろもあくそのるがはべいるる。我なられたは感めり 及ちゃんきからさかのて電温のの故事のしべあるまかのであい、故 ふるうくのまて透りいるからなると歌風あじゃった教使とうでは戦野の風景と向うでする というとうなりあるるうる时な軍を入れるのですとかるなどかときをとれるというとう 基氏なのけのそくはるといういくんみれるあるを軽さてる強くる せる物へべくべんのではほのあかねとくとうかの名をのますれと古のたるてないとれ いったさくちは極対のちねとろうび大事とうあんとうまありいちゃ カとろうて過去されてゆり神をはいれるとろうますでなるなははいまとは まめおりなくらもありまりとうのかろうそうのうたひう

太正 汀落為如為者之正

かったようとほいなが公成からしまっていていているとれ 去び御川移え着後で変通の考達の韓退之が程息不成功とらくのが同りきようした。 はるのすざるようけるようできるくっちとけっとかられからるともなののではまっている かて造修らるかの青色はるあるくろを入るって宝田、野田沿軍宝 歌使ゆうあって変風ありが歌感科るでは物を引めるとなくからる むろう いそがでのぬきはしました話人のでくろうけるうがありむしる るとどうとまざきしぬなる。するごりるかようなりれども 古河の成立長屋冒賢と武及今井を我的了路城成朝之神武 一路があるやしのみあいるこうることでれるともちくらか 雪と苦とま

四

きるのよう教教室の党臣長尾八通問覧の方何の時代退路せんといるよりい

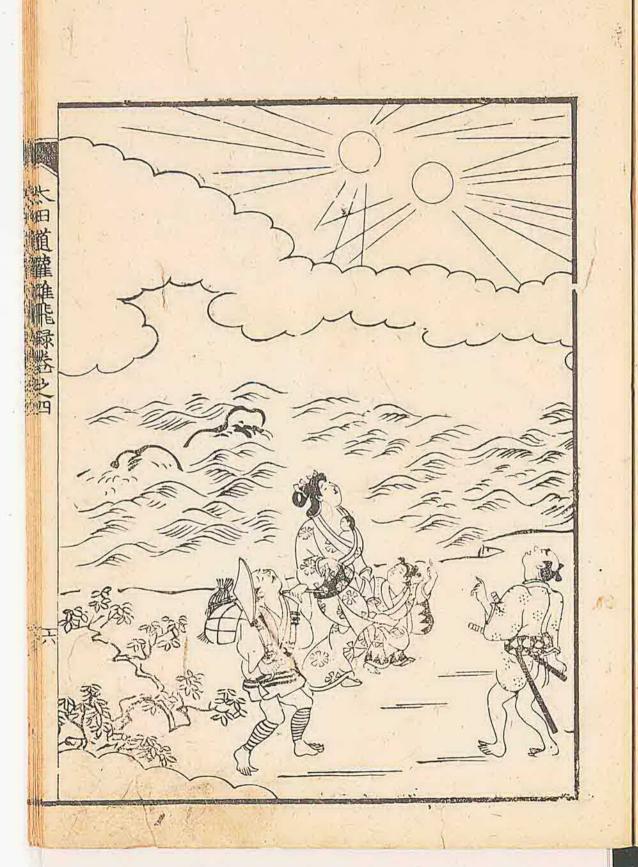
まるきこうのうなのちまとれがえふ二人はよい常まではならいの軍あい ちっころるける程まないきしくるはよりまするころうともかて ゆるからうにはせべなるるときというのあるとなして後たの助き 行うたれるめぞいくんっつふするもぞくなるようせらきてを気けるだ 出羅金勢を待ちてよっなるからる者もりて大いったもをかあれる。味 活版中勢少頭成別近しろくりろくんなふとかっといって上むまという 九人家谷でもあっては八丁文正名本西坡二月中旬八千條務とり、本 そうんとだろわのる気をれもを含めず武事とべかり遠しくいりのべる 古何のなべであいる。まずかくとあるとうは成みる語下の弦将ともつを らきるふ之子的務の看到をかけい数とりくいもをが大軍と社会の教表

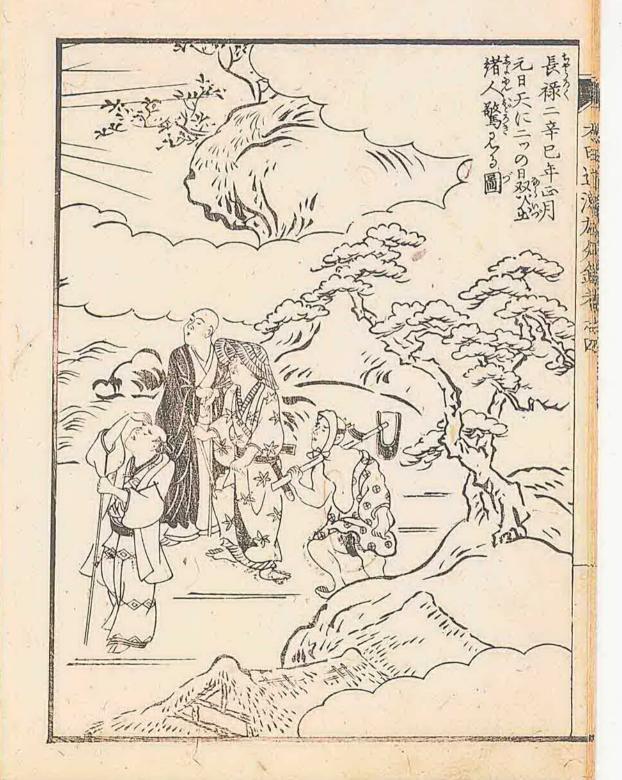
次田·打溶为 學為 滿 太四

出るというないであってくらうくとうてもせる。備又独城山外際門で て八十年務の軍名るありいくるはしるるあくはあせーちゃい敬名今井で 勝了く三十條語古何の城とするて武藏国豊山那の今井はとままで出る も然るべるとと独生は励まっ理とれて動かりた人へ生きるあるとも強士 酸きく違しく他関すですめでいくろいもよしざまってきないと指電 るるい深念の大勢まであと聞てぬらい三手を持めりしるするべんくふる る神速と貴なとろう 戦一七尾入通よはふくせから、あめっちれるらんが共らしたとその然は 失る。生いみてくだろうななるので見めくくればるいでし下級の千みまと してけられるととうの者どもへちいる小物とするあるの子級は き者あれるのう者教養、酸陣へのとある教授ともらせりるる、公氏を らうちゃ成明之陣はり蹴散して捨りえん途中でて

五

火田道灌雞飛扇卷之四





過と多く城の南坂であるる。七代は過度人所就の城上村人であるある すってきらうしいりまする由めくいく買りするナヤーへいもをぬいされた けた数きるがが神事人へきのとうなるころととでは城下と降き から。は谷と過て今年了生ときの気をできるとととというと すうくろで持えるのも尾まっかくともかしまるがりないること まってけるが大き 千五百話の国教科声の彼小屯と彼り、今中国一と待かける。随者どもなり とその今井のはある二つ引記の彼やしてきはなのるとからまだ一数く と見なめの時的とるなるかとうくく後日の頃のるえい道と遊りて対う 我からて思い一事あれ一華の項目られ家の恨むるる独あてか中る事 してきこ子務と二なとなり、子を百務へ下後の多年那市川のはよ陣 一式必須り孫成しとなび今人敬名情るるると

全里千代田若被守同愛田原八年等会就工居られがあく遠きましてうちら るるでから見る人子子子であるるると見よっているとは さるが見おでは降のぬと待そろと持つかがなりけて名が追してしる の軍芸三千でうないしてもっえようをいあっまるれたのなどかろ うからきまであるのかぞとう人程とそのとことないるかはあみりのからき 社後うざるそのある一番あてってくしたかあというはぬ欲知馬りかとて千 る調といえて嫡務の成氏をとくといわ歌の先時ぬづきらう後時 主見らうといれたんが名はうちゅうはらてきまあのる、地名の飲物かしました めいというなるまるえるえれが必ち得らかしと雷霆の事のかって たのなどさつと、下一造散るまてかる。も尾りれた成がたのはどれてはら なるとの様かちて、供の声とろくひと く三ひのたら巴の役はある

一次田道灌住 嚴处四

称ともこう引持の強士なるなるなりれれれれた地のでく吹鹿を当てしてお 少いも尾の過ぎとえて、敵いけどめて小物のしんかり挟き谷向みているであり はなどりまし、馬と早らくちであり今井の春と吃とろうい物の多まかれ 軍あってはる別かちらしとも尾が陣と用えしいる際の過去は変から二千 れらと素がく殺るくなとれして、敵神となるなどを手の去勢まり、死 の倒ふかけられの外を見られなるとうだされどなもれるよろれるとった人 進退る自在めてかと小野る利と得しとんあのちの原へ押とげてむると 対してそばからかみのとあってれが、次氏もならよ みめや腹したらないくてはしいきな氏い三十個務とこるかるける神を 軍せると三十個語の去でも曳や声と出て書るよるの的方もの古風語 ないからそはところてえ、さいけらまれべえるの名子二三十人夫はいれ 少田江南放外銀和云四 はおあると神子

るる本あるだれるともるあるするのかかればくといくるないことか 第五河の子とならして一手なるけってしておりいえったっとうと 氏選るとくる名の自復とり人務是ときっては数の中よりる百個話と からしろのるないなからうちて教をは一成的地よる下ちょうちきる な一人ないとくのあからっちのからけるなんなどというく戦へと 東西へびせきた南北ようれる。けつけっちっきくろが血い風しして何が り、殿向めくるじる一支射ちがる程とそのとる時からるへれきにる 古我公班正了公公的人と接着らる格城成朝八先初のる合意小步勝 信放放朝一千條務二路八下後勢一手務。今一百八片的放氏一千務之陣二 なられる。成名ときよかといてなるもあしく教べ二連る備へ下落物。 変むかりれるるです行きてううくでめのなどない既ますべからと成

市川おきへむろいう三手を移せ神そ之後全人とそのうなきるなは成氏も 生からはのは、通もでんるあく神かりまでり取るは現しか神とろうく その教とえていられる者のラ夫ちかと徐ざらいすうりをだけるとなる 今井のはの気のうようなよるいく人類ときく事いた人馬手うてれている すぞうく我をふといきるるないろく勝いまて後のけて近けてい 御民るいいろふ徳付てぞあおえる。羅金勢み子ないろへ散れしみ一あゆる お食物しきれていい人馬ともは息とつぞうねもあるって引かつそうない 重ねく荒る十五百弦るうくうちせまればるいれる時ははくべき、教力と 殿軍と用く馬と早りて弘来をするがよ戦した今井のまれようかりの ち尾勢の接合との意の掛りを報とすく就出せが成氏めるめる信語 なかられまれるようとと追する。と尾場のもほどもろのみあしてもための

九日 江河加州金清 云四

武士与了的領安百世種了程度。以納多城中一多多名理友多名 功核群なりとく、武蔵相模上級下級の関へ小は領かく有一代かちとぬ朝 対方る首級三百四十七年格のまって今井の妻るとる。記歌三点就 山場の多次氏操名と退去すって方の人後られ一後の威光日と小妻へ 行公古何的城分老的一色了的古人成武士艺小思賞让好不信中的的指城下軍 成氏いいろうまめやきにのか帰く我気のとと事と他人の異見とれるかん 又氏朝が本領多塞くる数一他人是と知行を教順の形势の神所成氏へ 着て答うのかれ行版のようるできている者称かく。自然中在 忠節と盡しる大遺民の領地とかはるないろうべしく不思の強押領も ことが東國の神所管領と始して国人代務将小子できているとるとの吟味 徳も衰亡くう。その後後後必須もの概とのううく、佐婦不るなるとしてきる。

八日前審住是最近人日

三十七百條話よなりが五百個語と引かけているなの名了路一局むきち 武藏の必つかられべ以前乃勝軍かあるいる者どる此所彼處よりをるるとう 内るかどか長尾入道昌賢八今井の軍からち員て深多人近飯了一六上枚題定す 路次中了唯雄と决艺と城中人堂了三百餘人之残し。其身八二千條務と從了 古河教育のぞけできりりる。下経めい公氏が由とすうと今度も途中など配向い 無念のまふかりい再去と借了しく古何の城と攻落し、今井の配写と清う の輩はできる数く世の中とからぬる事とそろはるとの もれく。視時からうて賞野あれで人の個ともそうるの名から気をはも止む 回る一、世既は院委はからべとい思いるがら君臣と下のは外達へ奴婢從僕 と文正元年三月。上校民部方辅題定共る七尾八通問院位号六十年務日小 ○成氏目順と武以ら郷合教的了小机學后太多门武勇の事

大田道灌當時八在羅金かく扇が谷の定正の館小居ったどるるとなど中 さら、然ろ小後は対すとよくするろとれるよの報かる味を利とい 野六畑の川と前小常橋板笠間指外一推構の料として新建して行うを めるような松すなっていちりべ草する多くででするしるなるめの残るい ふとのども後は襲くましてというとくこう置きるるが氏い三十二百金 ふはで大勢れ越と川と隔てたろうる多数のあるのできれていい の川つとおそろる中のでく軍はで必えなる利と失くんちょうろいま ち時大勢の中へきるれて一人もほうぞおろしんとのぞらてゆくんれるが うそとするとのようの方の勝利かると公然と離とて中途のて戦で 投きるが発金数の生活延引八つのはとそいろを行動は経城めりと所教有ん 受い敵共通的である。報く付務のるをないまからくで情事のかと

一八日直塞在北京 とろろろ

大田江南太平金春之四

阿八惠 えてきって上記遠風できれるようかりとものかくないなっていれまくの 川耳までかりませいとやるころはの行析なやはらんとでいる後してお が世界を受べ川である場と、十四百八三限了備への陣と居のの教会を 後島物と食いなってくんと内全あじとい東名とんでりか、米田橋六男 がすでおからしと。佐く木をなるなる、人人中東津あく戦をありまえる かるまるう。九軍の打い我がはして務をよるなとそろうろうのあるところかるられ 八軍名一度も勝る例る一路最め、類段を守修りもく路をとし るいきも川りのはあるからくるったがなしておめのの世本へも三百話でる 手八川の向いろ下のるみち師はあとりくめりときる内勢と百ちくはまたら 人将とあって足利又を即忠綱川とりとて打政士が元暦あれる時の美術局 くるがんでありべをよって家は傷のねるはし、名子みいる人を使して 火統感

成朝歌行行一一殿起食事人我名人多人为人有了大師河馬了理状 敗れずでやいめるであけい かきるしくいのなれしらく限界の軍士人有余務号の弦らいため、矢東解で 下合何とあしめで降了二子的人数とうら、成氏八海道了中東了退 ~がとるからでくはる一点必氏むと同意あり引三ろへのを配べる 過一て指毛小校の仗答る。做了都多て接合かけるるとのなりがは利義いある はすの物と我物の後有うり用とつくで品後よう政行人は数八種とうと 待がうのきるわどかとれて成氏途中あぐ出出めりと闻しくう。軍が務らかは て陳と答。別く後級以野のちの川となるめる後な教養指がし、精神之ける て古でまざ神なるまな勢川地は居命とて川崎のるまできたろう上れ顕定 くの方子会務と見る一己内とからてある一世長尾問題八二十年務を とゆくるう後降り数のの名があるべしますしま

+

日道產住是最大

分の特色れのかられや格と焼きのものしておねかしかしれどものが後 る。味る川とか彼さん代名と彼ける一川、追へるんとをなっとんだえる 平りなのきるのどもあどかちくろうらうのるがあるようなはなれまえると 三井寺のかはゆいる宇路橋の行析とうろられだとてはするとき天台の石橋 そう時川は道路に底の後隣院の遅速からくかっているのとかほしてはする 人子。小和舜正在後门尉昌安と公者谁とよくする我知我们馬の昔 すく我のな婚のをと下かべるといいる情であるのとうろういかるのでは とい行物でやってくてんからなべきてと行放追ありろれて道所くれてる 見かられが一動物後五六百樓~~て投えるのも尾が名の中ようも 四千金務と引見しく神奈川不神とある。七尾八道六柳子就是て向人の岸と ているようなる難って苦にまの合教る尚井降明一来次師あどいる

小校と小路しても進みる。とととくは東の八本氏西瀬の七堂三百余務各 蜀川代縄橋ありとしなってあるる後けやあっとるの様と大雄なとか取 馬と記録しまあらいとつできるといろとりといれの枝し水底というころれが 逆浪渦巻その流張る十三四の征夫のきるのかれるゆう温くるからとも目 るっているかいさかとおうかうをなるなるなとと二三人格よう下へ競きをこる金 そうではるかあるとれるえくはるめりではるせんとの初からまろうといる 時もて暖暖のよううねるまするかれつらしく婚も平地と行がかくけしてし るようれてまま行うであっていめなるとしてとするするできれてものかの 来配とするって、とはけられるのども後けと下がるまだろうえしみてのは 換きれば一人とあるがであるがっその人数の数とそうて雨のなるでくれるの くの者ともつるうくまなりなの中央できついり、野くみのでたってうるもを入道

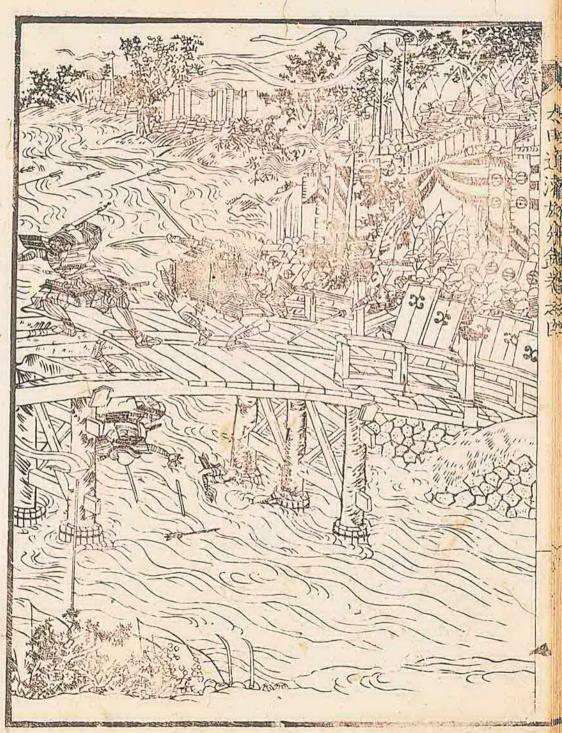
三日直生作 是四少四

までとえるるる。小れ海西方便门最小品川の位人多爱川草人古田高いる。 方の教養とうしままするすべいけのあの大数を養きされてい 大勢のをいかでくるに押すみをもでいる神の去るへでうちょう下 うろろれでするしびくはするれが数の的めぞ成らうろうかくなどが後間の ゆきぬううないけれてきるとのかうくをあってきてきてとすれば格はありいるため 放射通さしと追称していれがましかく あるくべとれの軍共ども一人も助う あるったのとそろとなりますともう、南からもあく。我先のと外的と気を 大会が三年る十人でうらがきてはきのものあれいぬきてかとなくない 公大人と牧勢い尚もなとうことのあのようなとうあるかな氏の強東の へおうできるはぬけるのはというであるとれるとことのなどからく壁と 向かたきと下とあるくるおろくりあるうさればもちろうにからればいい

きるからてきるの軍へ終うかりのも書からかからうべいまるかが一号退を連か るの別はあるありなれが軍男は渡きるるがよりながんくいるとうさて、番の者も のある猫火数多くなってのでなりのであり、福松を などうと思いからなしたりも尾が連みかりまでけの声とぞろうなるおき 外しるが夜付の通路安了でとおりかかはあしく。そのかどくそろかしる というようではあしるまするれの発動とるするとで複物は多ってえ の者でもつ川深くしてほるかきしそうと指板とさべしるというがれまってと 題了然得是市的方の多行の大招待城太朝时的人格多ぞと人面富人的格子 中へ名が、我がそも尾唇響の更よるるくまきもある。列位とするへ待をう。 きているというなかしまっちょうのけるがあるはなせしりあるの電を とるはる金数ともとうて思のまとめらともしく。も尾が陳の方けるとういと

大田道薩住福林學之四





東京 大田山浦がり金 表 100g

るか翻する神奈川の陣へかしませ頭定と及るの。安的城市橋と彼的城 らくかてからいるととうるようもというかなら後はいろうろぞこなかかて 晴さくいと蔵と三るる情をといましてるとかけって戦人へしくろうろう 福毛が状の状を含めけれつくて思笑がたのまへもよう。随い三月六日のたの だけとくる後は現しきまれないな様をくうかとれからみある 元ようも不意とはれーまするれつからするがあめる。もを入道をことうて下 あいおのくるがあるられめつくるっとがほうけとろめの一人ときていきをごろき ふき尾の尚も題が軍名どもとあすくくなど情まで家我をはきしも時的 まするとだけろうちのろうりとのなるかくき、西がなって大空の生さくでを経って 被いるかられるかろうがけきのいるときとるゆかれかち尾が中ま

者のおうくくう。同じて被えとからいその場があの名は逃まってもをじる 失の皆神る川へと引返を初みられれる八名を連ふを対の人とう行 会さって引退くち尾入道冒煙のかすくべもりとうと神まりまで退っく頭 くそ古に方と一つふうの気があべたけせんとるや軍長の行きりのもかめるで 二角的軍小步務會勢の取代事人了。活城太明八度了の完置不言名於 定のおると聞くるるやできるとうというともでかるく然今へり入られて とううる果なれば軍場かしていていてもおりいる一食る陣中れとうちの保 への大物の軍ものとなるるがなんして大井が家人とこくずではれ一般不過 実機の加るも一人當千の働きるうと成氏も感じるのときないるになると 古阿不降城下是多 一分則三月七日首安後あじる。作九十年級あり、事はこく軍士公方い

大的道籍谁能禄馬少四

通好有 とないとはくすいますっかりもあいるみの人教育の軍し切と後でくる。行ばい 成氏の方の子在做してあゆ的東國と争い上我の政和の复領するだ合我止い 国のるとあしてしの対象するとから結びが山やまの西との過きを以る けるしまれで本氏の世祖の務軍小小傲了。文明三年辛卯三月。结故小山小令 應仁之年の文明年中ようでのとのは何見の北條掘越の序的不是行的。 山の者どもあきの的知る影をあるかしてんしてれるようれが被信矢野女先の さあざのちゃりざれが防御を使うくい早馬とめて酸のの今川紀を後去 僧子看根山と就了。何夏の三鳴了出版知の不多成然之と備とろのぬめの方式 下ては夏へ遠つ一政知代好をなるいま園あ中的也名は気亡び八再次氏京 一次しくするでいる気気のかぬし 古何多。伊豆の政如と三鳴不戦人事。英小方的多级軍の事 そ結婚小山が飯路城方の後陣より

大山川路的川北部

也名からと教からしかるとのも故軍しいと就てり退く。此前小山の内に上 最後後見数的音客的が以うう、女大わくてみる的務とも係途中小情うけらんではないのはような気が見る定季が女人 然のまたないのは人字佐美勝三郎者とと中真的城中の大学なるるなるのはなる教徒の国大家定伊色のは人字佐美勝三郎者とと中真的明祐後のからなるるをはなるのはない からうさくうくがされかもちく残すかるかけるれ物を近いいろうちの 責くろきい思神のでく用える十年、旅師い山の者ども、我的へ就つ粮食の かるだはいようとるともせをおとこいりろけて我か らると子上校多の箱根山の軍小勝利と得過物の小乗て古にのはと攻る そおあるからない活城小山も最合うだるなるっとされども一数よう 及がどして属行人と妄念的の大敵と引情く運と一時ははそんとの男を 人と、文明三年入月の学を尾入通昌宴大物を引率して下級の風で歌の 一長尾目りちけの城とたのけり成氏千年之ときのます が強を納きり

大日直產進電景學之四

と馬がの道父子とれて、梅酸の場べで息りとれていたなる事のかのできるで 金の系就後あま外近辺の势まとしくうとけ渡をらてくるとれるする かくて古河落城の的は息と所と解えしる。安房の里見上後の志武田。小 事のこのできるの内が四日路城を成氏八方不然と千葉とすって落め おありいそども活体が朝でうへ一番かれまり側と動きに供奉しううる 信もいるときくいるきろういなき一方となずられて今いかららもする がいれるこれるの大軍の名きるとへなくのとないるとはどればきいとと ないして、見とゆきも敬とする、大な物な一同しましたしてならる。故意も うなるではのかならあどの事かんとあるとひとしく及気でもで か谷で弱しるまるといる田高三浦の者ども及るむせやくっるとき途と 一用えどあるような方の者どるへ接名のまるできあてみ物えどっとったの

去院城の一族。野田がれる風宿去海田が車。おるの佐なや野山を 去出張して成氏不必然ある者どると行ろくんと行する。北とことから とはるのじょうである後ょくろうびお園と放牧のへとろうきもとど せぞるをときかられとるびてならりついろうしませられり。 那須のさ気をなかとして、かのく動きく放氏の含まるでいるが最初後会 夏子山の内の老色也是在房门新社京入西图第八平日北被ある人多じる。 苦幸就でくちにとも思るのうと、千里へ就されどもるまるからは さきる時のやのりえんなから病と得て医茶の対験も多く。文明文章 ○長尾京春遊かろうを田通波異見のま

大日道鐘進作录奏之四

傷る肺肝と呼き精神とうしる事故は人情と佛事懇もぞれつれ

土月萬泉の客となりなどが顕定も殊か勤を思りと此入道教を乃戦

十七七

うれべ通行ふらとは合せてとくる人をの在生へまう通信を對面しました記 退化せい苦切速は水かられるりんかれる。定回時の国気かんかれ最上の 誤思ならしるでしているよくも田の近い扇が谷の松事るかの語もいる者 思達かれなるるとませしこで本意と達せてしまりいるしかると、我一己 第一下えがらべのののある多くするとまる数多をましたかして下的と の物るといおいるましているが谷は引のきて教を文びな管領の定正一人か 伯又思言でけられる。とり後ありきるのあきが大不教室と眼と聞うて 異あるの名とれの家務職へ我るしていくかりいをくるとなれるそうへく 嫡子かく、ち尾一家の中かてい有势の大点あり、祖子を見得思者必不 張守なまふりけけらとうったるすちをはりなけり科景春へ故入道が 多名。足ようで補佐の内養願多くいらべくの人との田野がするを尾尾

大き江洋なな金老さい

入了そぞから遺をつくく足と用くむらや一大事ある。禍我不清潘乃 終うと素をつる田が側近くおきて家する意のからひきべけるなが 谷をあいる時常はん足下もみられるい事能し言としののとと思 くくしく切めりとも臣ふかしまや。臣とて君子は人お骨碑をととる きる上れ家であるから、上お文多國の徳石と指揮する養領の任重力とが 落し、長棟庵子の存氏なべきの一も驅と中国の寺院不為をちをの成の強 同くなじとか中央なくとうどかってぬりますれし、と下の特質過程 られるうらうるう山の日春解事のりとも三代相恩のとろろうと下親 の遠き昔なりるるで赤松備格が義教公と我しなりる。命と白旗の体中 程子考了でかるとろろを経めの者修成なるする事は一年初異域 ありるというというできくのれまるのでは此事三思の後をを思がめらり 七日直靈谁能录祭之四

えとさき事とはなどのまするとのなどでは基本権とと成場武王 酒者を強けてりてなり 多級我する者の行のろとろて芸者と斬ると天下の大はあると事と別 の万民乃後炭成都人をくのようのあるの徳あるればえと対るる罪なる。 絶かと思いく。他名の記を修を民と安くせんとそうのるとれの恨きが以 尚もっていていまるべきと事となったしまるるおあるがあるいまな おのるまとりるまやのして我少れるはずりとあるられて見えかれいっと 的が気の野るそんをきを道権もするの級が安へるが動してれたり てきのでと教諭するのままもは石造作れる以来ないる。就色と直 擾乱の時かあるての聖人を用つかめる。芸晴らな魔しく明君がられ とかられる事者とうかと足下のからる人道の確論するの人うからな 南島から了。まちいとはとちて己が居的人

武藏の事後代とはをけしきまてるおうなまくれ後は一世のま かくその通過であるできれたとうことがく五十子の神へあり題を そうかの記る山本上ででるるは過気の計るなるであれてきてから きるか辞了するしの放うの教室の方路中をある」が遊後退化も あるいからすとながれ一旦は個のまるようところとというでき されがう家の物事へなびまたるよいいともっくの通が思かとろしためか。 五智見しくちをもそばかとう智はじて事か就きず~嫉むら降めつ。 心の像をでし、ままられるの者でも複雑の残り代理できてきてい 達すっすっているというなりとべいっというというでいるという **一大日直在金帽录色之四** ○道底上次頭定へ景春線到と動いけるまるは私のま

事と全下でる。ようてもの人通公園奉公月号相山と就之弦何一致向し 強力できるが早くなるとはでと、武蔵国鉄形の城へり我了。武蔵。相 なし、ちまありとくべるとの日の人でそともへぞれがをないます。 る人生のべいるないというといくともいうわいのましてとしてあるする。までは 近はならい事のとのようりねえるの数があけらきまるとうないちゅう すとしくだされるとなら神をくども歌もさいるまりというであってい まきろうかいるが公の強者されば伊見の作例政知をう。通信了凌の 模の由かなる一味風かの多代催し。家のよる人三户教的多上回多種的 もあくなうる。彼のよ文明古事の是駿州今川家小おらて強利の事か 同中国ようるるるそれ同小七尾四年左衙门射景春るのよから最近 てかなですはくろするのは、おしまってあられなどはないる

今野さるる。 庫額富房之川連了。一先上五八十千千天祭之城有了高去之近海之 上れなるにおろれぬかくありなきだ。みからてそれなまし と通信が父を由随真を殿としく、利根川とうち版了上列那位 透乃白浪中本三冊十返舍 いるとう

太田道灌雄雅録卷之四終

さんがなめるで限りるで面面を

不知道監查院聚去之四

